

高等学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

特 別 活 動

東京都教職員研修センター

目 次

研究主題 充実した集団活動を通して、
生徒一人一人の社会性を高める指導の工夫

はじめに

| | |
|-----------------|---|
| 1 研究のねらい | 2 |
| 2 研究の背景と主題設定の理由 | 2 |
| 3 研究の方法 | 2 |

生徒の意識調査

| | |
|------------------|---|
| 1 調査の目的 | 2 |
| 2 調査対象 | 2 |
| 3 調査の結果及び考察 | 3 |
| 4 「社会性を高める」指導の観点 | 3 |

実践事例

| | |
|--|----|
| 1 事例1 ホームルーム活動 ～ホームルームにおける話し合い活動を通しての取り組み～ | 4 |
| 2 事例2 生徒会活動 ～生徒会を中心とした学校生活の充実と改善・向上を図る取り組み～ | 8 |
| 3 事例3 生徒会活動 ～ユネスコ委員会の活動を通しての取り組み～ | 12 |
| 4 事例4 学校行事 ～文化委員会総務が意欲的に文化祭を改善していく取り組み～ | 16 |
| 5 事例5 学校行事 ～文化祭実行委員会における、自主的活動を継続させる取り組み～ | 20 |
| まとめ | 24 |

研究主題

充実した集団活動を通して、生徒一人一人の社会性を高める指導の工夫

はじめに

1 研究のねらい

学習指導要領第4章「特別活動」では、目標を次のように示している。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

私たちはこの目標を受け、人間が集団や社会のなかで生活し、人間としての在り方生き方の自覚を深めるためには、社会の一員としての意識をもちコミュニケーション能力を生かして人とかかわりあう社会性の育成が重要であると考えた。社会性は集団活動の中ではなくまれるものである。このような観点から、特別活動における充実した集団活動を通して、生徒一人一人の社会性を高める指導の在り方について探ることとした。

2 研究の背景と主題設定の理由

平成15年度文部科学白書では、青少年の問題として次のように指摘している。

青少年の問題で社会性、規範意識や道徳心の低下が指摘されています。これは、個人の自由や権利が過度に強調されてきた社会傾向とともに、子どもを巡る環境が大きく変化し、子どもが人や社会との関係の中で自分を磨く機会が減少していることと無関係ではありません。

高等学校においては、生徒会や学校行事の取組みに見られるように、教師の指導がないと活動が成立しないなど、生徒が自発的に活動しない傾向にあると考える教師は多い。私たちは、この点に社会性の低下があらわれていると考える。その原因の一つとして、組織における責任よりも個人の都合を優先させる価値観をもつ生徒が多くなったためと判断した。このような生徒の意識や行動を、組織のかかわりの中で捉え判断する姿勢を育成する手だてとして話し合い活動の充実が大切だと考えた。

そこで「話し合いを中心とした活動を展開することで、集団における個人の役割を自覚し、主体的に集団活動に参加しようとする生徒が育成できる。」という仮説を立て、上記の研究主題を設定した。

3 研究の方法

研究の背景で述べた、生徒の意識や価値観を把握するためアンケート調査を実施する。この調査結果を基に、各研究員が所属する高等学校の特別活動において、生徒の社会性を高めるための指導を工夫し実践を通して有効性を探るものとした。

生徒の意識調査

1 調査の目的

本研究では、以上のように研究の主題を設定し、前提となる生徒の特別活動に関する意識を把握するため、以下の各項目についてアンケート調査を実施した。

A：特別活動への参加に関する意識
C：集団における個人の責任に関する意識

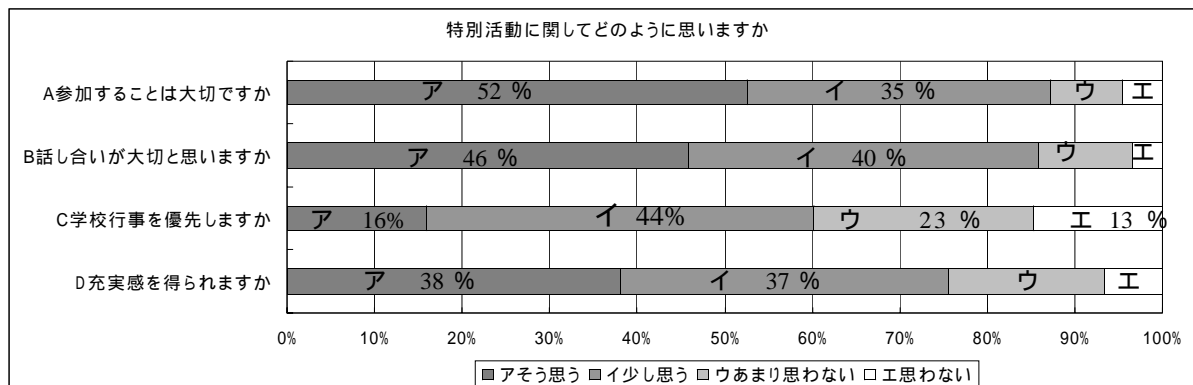
B：話し合いという手段に関する意識
D：特別活動への期待感に関する意識

2 調査の対象

研究員の所属する4校(全日制課程普通科)の生徒826名

3 調査の結果及び考察

(1) 調査結果



(2) 考察

特別活動の参加に関する意識について

特別活動に参加することは、約9割の生徒が大切だと思っている(Aのア52%、イ35%)。一方、自分の都合より学校行事を優先すると答えている生徒は6割にとどまっている(Cのア16%、イ44%)。このことは、参加することが大切だと考える生徒の中にその行動が伴わない者がいる可能性を示している。私たちはこの意識の格差が特別活動を活性化する指導が難しい原因の一つだと判断するとともに特別活動を活性化させる指導の観点があるのではないかと考えた。

特別活動に対する期待感について

特別活動に参加することで充実感が得られると考える生徒は7割を超えている(Dのア38%、イ37%)。このことは、充実感が得られれば特別活動が活性化する可能性を示している。

特別活動における話し合いの大切さについて

約9割の生徒が特別活動で話し合いが大切なことだと考えている(Bア46%、イ40%)。このことから、話し合い活動の充実を図ることで生徒のよりよい変容を促せるものと考えた。

4 「社会性を高める」指導の観点

これらのことから「充実した集団活動を通して、生徒一人一人の社会性を高める指導の工夫」の観点として次の3点を考えた。

- (1) 集団活動において生徒の参加意欲を引き出す指導を工夫し主体的な参加意識を高める。
- (2) 集団活動の中心に話し合いをおき、生徒のコミュニケーション能力を高める。
- (3) 集団活動の中で、集団における個人の役割について考えさせる機会をもたせ、社会の一員としての意識を高める。

これらの観点から充実した集団活動を展開することにより、生徒一人一人の社会性を高めることができると考えた。

実践事例

1 事例1 ホームルーム活動

充実した集団活動を通して、生徒一人一人の社会性を高める指導の工夫
～ ホームルームにおける話し合い活動を通しての取組み～

(1) 指導のねらい

本校では、4月から9月までに体育祭、合唱コンクール、縦割りホームルーム、文化祭などの多くの学校行事を集中的に実施してきている。これまで、生徒はこれらの学校行事に自主的・主体的にかかわりながら、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする社会性を高めてきた。しかし、近年、生徒はこれらの学校行事に自主的・主体的にかかわれなくなっている。特に、学校行事を進めていく上で重要なホームルームでの話し合い活動が活発に行えない状況がある。この原因としては、生徒の人間関係の希薄さや生活体験等の不足、人間関係をつくる力や他人に共感して思いやる心の弱さが考えられる。

そこで、「ホームルーム活動において、生徒一人一人がどのように学校行事にかかわっているのかを考える話し合い活動を行うことで、各自の役割と責任についての自覚や、話し合いによって課題を解決していく態度の育成など、集団の一員としての社会性が高められるであろう」という仮説を立てた。

この仮説に基づき、本事例では、次の3点のねらいを設定した。

生徒に学校行事年間計画表を作成させ、学校行事に対する目的意識を高める。

自主的・主体的な話し合い活動を通して、生徒が各自の役割と責任を自覚する。

学校行事終了後に反省会を行い、生徒一人一人の取組みを振り返る。

(2) 対 象 普通科 全日制課程 第1学年 41名

(3) 取組み

学校行事年間計画の作成

前期日程で行われる体育祭、合唱コンクール、縦割りホームルーム、文化祭について、教師はホームルーム委員に学校行事年間計画表を作成させ、教室に掲示させることで、ホームルームの生徒に見通しをもたせるようにした（表1参照）。

表1 学校行事年間計画表（抜粋）

| 月 日 | テーマ | 話し合いの内容 |
|---------|----------------|----------------------------|
| 4/14 | ホームルーム交流 | ホームルームでフルーツバスケットを行った |
| 4/21 | ホームルーム計画作り | ホームルーム計画表の作成 合唱コンクールの説明 |
| 4/28 | 総会準備 体育祭準備 | 体育祭選手登録 |
| 5/12 | 体育祭・合唱コンクール準備 | 競技に関する説明と注意 合唱コンクール選曲と計画作り |
| 5/14 | 体育祭 | |
| 5/19 | ホームルームレクリエーション | ドッジボール（第1アリーナ） |
| 6/9・16 | 合唱コンクール準備 | 打ち合わせと歌の練習 |
| 6/18 | 合唱コンクール | |
| 6/23 | 文化祭準備 | ホームルーム企画の打ち合わせ |
| 7/12・13 | 縦割りホームルーム | ホームルーム予備討論と本討論 |
| 9/15・22 | 文化祭準備 | ホームルーム打ち合わせ |
| 9/25・26 | 文化祭 | |
| 10/6・13 | 文化祭反省会 | 文化祭アンケートの記入と集計結果に基づく「話し合い」 |



図1 学校行事年間計画表の掲示した様子

4月当初は、1年生の生徒は新たな人との出会いの中で、高校生活に期待と不安を抱く時期である。また、学校生活における基盤となるホームルーム内に組織をつくり、組織として活動を展開する時期でもある。これらのことから、ホームルーム委員が学校行事年間計画表を掲示したことは、ホームルームとしての努力目標となり、これからの学校行事への取組みを始めるきっかけとなった(図1参照)。

ホームルームでの話し合い活動での配慮事項

教師は、ホームルーム委員と事前の話し合いを行い、学校行事への参加や協力、ホームルームの組織や係活動の円滑な運営には話し合い活動が大切であることを説明し、下記の6点に配慮しながら話し合い活動を行うように指導・助言をした。

【配慮事項】

- ア 少人数での話し合いを取り入れ、生徒一人一人の意見や考えを出しやすくする。
- イ 少人数で話し合った内容をワークシートに記入して、全体に発表しやすくする。
- ウ 黒板等を活用し、個々の意見を明らかにさせ、話し合いの筋道が見えるようにする。
- エ 話し合い後にアンケートを行い、個々の意見を集約して、資料にまとめる。
- オ エの資料を配布して、生徒一人一人の取組みが他の生徒に分かるようにする。
- カ 話し合いの最初と最後に、話し合いの方向性とホームルームでの決定事項を確認する。

縦割りホームルームの取組み

本校で実施している縦割りホームルームは、前日に各学年のホームルーム内で予備討論を行った後、1年生から3年生までが一つの教室に集まり、討論を行う話し合い活動である。

今年度は「才能か、努力か。天才とは1%のひらめきと99%の努力は本当？」をテーマとして討論を行った。この話し合い活動は、結論を求めるのではなく、討論の練習の場として位置付けられている。ホーム



図2 ホームルームでの話し合いの様子

ルーム委員会が企画・実施して、例年2・3年生が討論をリードしていく。本事例では、対象生徒が1年生のため、初めての縦割りホームルームである。そこで、教師はホームルームでの予備討論の段階において、話し合いの仕方や、話し合いの練習の場であることの意味について生徒に指導・助言した。そして、ホームルーム委員にホームルームでの話し合い活動での配慮すべき6点を踏まえながら話し合い活動を行わせた。(図2参照)

文化祭の取組み

本校の文化祭の取組みは、6月の合唱コンクールが終わると、すぐに実行委員を中心にホームルームでの話し合いが始まる。今年度は、日本の古典的な遊びである輪投げ・ヨーヨー釣り等の手作りゲームを企画することに決定し、夏休み前に企画書を実行委員会に提出した。そして、9月の第2週目の6・7時間目を文化祭準備時間として、ホームルームの打合せや作業(図3参照)を行った。話し合いでは、活発な意見が出ないため、実行委員は徐々にホームルームの他の生徒の意見を聞く機会をもたなくなった。そこで、教師は実行委員と相談して、各班ごとにスケジュール表を作らせ、これを基に、実行委員と教師から班ごとに話をすることにした。このこと



図3 文化祭の準備作業の様子

によって、班の作業が円滑に進むようになった。また、定期的に各班の作業状況をホームルームで報告してもらった。このことで、実行委員は、ホームルームの各班の状況を把握することができた。しかし、文化祭本番が近づくにつれ、全体の調整が必要となったが、実行委員では全体をまとめるまでのリーダー性を発揮することができずに、文化祭を向かえた。当日は、ホームルーム企画としては、多くの参観者が来場したことで、生徒は一応の達成感や満足感を味わうことができた。この結果と課題を踏まえて、実行委員を中心に文化祭反省会を行った。

文化祭反省会

文化祭終了後、実行委員は文化祭の取組みについて文化祭アンケートを実施した。その結果を基に、反省会では「文化祭準備の後半で、話し合いが深まらないのはなぜか？」について考えさせた。生徒からは「皆自分の班のことにしか興味がなくて、他の班に興味をもたなかった。」「意見が出なかったので、自分も連鎖的に意見を出せなかった。」「ホームルームの皆にやる気がなかった。」など他者に対して批判的なものが多かった。そこで、教師は、ホームルームの生徒全員に「前期を振り返って」の作文を書かせることにした。作文の中では、「一点に仕事が集中していた気がします。」「ホームルームの時間に意見を出し合うことは大切だと思った。これからも自主的に発言する努力をしたいと思う。」など、生徒一人一人がホームルームの一員としての自覚をもち、協力して問題を話し合いで解決してくことの大切さの記述が多く見られた。(表2参照)

表2 「前期を振り返って」の作文より一部抜粋

- ・文化祭は大変な人と暇な人、ホームルームに入れる人と入れない人がいた。一点に仕事が集中していた気がします。
- ・ホームルームの時間に意見を出し合うことは大切だと思った。これからも自主的に発言する努力をしたいと思う。
- ・文化祭は中学では味わえなかったような、たくさんの楽しさ、感動を経験できた。ただ、もっとこうすればよかったのに・・・ということも多少残る。これは来年につなげ、もっと行事を楽しんでいきたい。
- ・文化祭はホームルームの中でいろいろと話し合ったりして当日よりも、準備とかの方が楽しかった気がする。
- ・さんと一緒に係を精一杯やりました。200人も来てくれたんで私は満足です。
- ・文化祭は成功だと思う。毎年4階のこの区域には100人程度しか来ないのに、今年のホームルーム企画には200人近く来たのだから。

アンケートの実施

教師は、生徒に「前期を振り返って」の作文を書かせ、これまで行われた学校行事を通して自己を振り返らせた。さらに、生徒一人一人が学校行事を進めていく上でホームルームでの話し合いが大切であることを理解できたかを確認するため、アンケートを実施した(図4参照)。

その結果、生徒は、話し合いの意味について、「自分の考えが深まる。」「ホームルームがまとまるために必要なことである。」などの意見を記述していた。また、話し合いの際に気を付けていることでは、「相手の立場や気持ちを考えて発言しようと思っている。」また、話し合いが深まらない理由としては、「他人任せ

で目的や興味をもって取組んでいないから。」などの意見が挙げられた。さらに、解決策としては、「他人を理解することが大切である。」「意見が出やすい雰囲気を作る。」など具体的な改善策が挙げられた。生徒の話し合いに関する意識の変化では、「他人の意見を聞くことで自分の意見を見直すことができた。」「自らが意見を出さなければ話し合いにならないと思った。」「中学より人数が増えたので、協力し合うために話し合いは必要だ。」など、他者の言葉に謙虚に耳を傾け、自分の考えを積極的に表現することで、話し合いによって課題を解決していくことの重要性を確認していることが伺えた。

前期学校行事での話し合いについてのアンケート

ア 「話し合い」はホームルームやあなた自身にとってどのような意味がありますか。

イ 「話し合い」に必要なこと、気を付けなければならないことは何ですか。

ウ ホームルームの「話し合い」が深まらない原因は何ですか。

エ どうしたらホームルームの「話し合い」が深まると思いますか。解決策を挙げてみてください。

オ 前期を振り返って、「話し合い」についてあなた自身の考え方や意識に変化がありましたか。変わったと思う点を挙げてみてください。

図4 検証アンケート

(4) 結果と今後の課題

4月当初に、ホームルーム委員が学校行事年間計画表を作成・掲示したことは、ホームルームとしての目標が明確になり、前期日程に集中している学校行事への取組みを開始するよいきっかけとなった。今後は、各学校行事に関係している生徒に具体的な方針と計画を立てさせて、よりよい学校行事にしていく必要がある。

ホームルーム委員や実行委員の生徒を中心に、生徒一人一人がどのように学校行事にかかわっているのかを考えるための話し合い活動を行った。この過程の中で、生徒は各自の役割と責任を自覚することができた。今後は、話し合いで活発な意見が出るように工夫するとともに、全体をまとめていける生徒を育成していく必要がある。

反省会では、生徒一人一人の取組みを振り返らせたが、他者に対して批判的な内容が多くなった。このため、教師が「前期を振り返って」の作文や「前期学校行事での話し合いについて」のアンケートを実施して、自己を省みる活動を行った。このことによって、生徒は、ホームルームという社会の一員としての意識を芽生えさせることができた。今後は、話し合い活動を軸にホームルーム活動の充実を図り、生徒一人一人の社会性の向上を高めさせていきたい。

2 事例2 生徒会活動

充実した集団活動を通して、生徒一人一人の社会性を高める指導の工夫

～生徒会を中心とした学校生活の充実と改善・向上を図る取り組み～

(1) 指導のねらい

本校では、生徒会活動・委員会活動や学校行事などの特別活動において、生徒の自主的・主体的な活動が十分に行われているとは言えない。特に、生徒は学校やホームルームでの生活上の問題に対する課題意識が希薄であり、生徒は学校における自分たちの生活の充実や学校生活の改善・向上に積極的に取り組めていない状況がある。このため、教師の適切な指導・助言と教師間の協力体制が不可欠であり、教師が中心となって生徒を引っ張っていかなければならない状況がある。この原因として、生徒一人一人の学校を思う気持ちや規範意識の希薄さや、生活上の諸問題について、教師の一方的な指導に終始していることが考えられる。

そこで、「生徒会活動において、生徒が学校やホームルームでの生活上の問題に対する課題意識をもたせるための話し合い活動を行うことで、生徒自らが課題を発見し、解決していく過程を通して、規則を守り、協力の精神を培い、生徒相互の連帯感を深めるとともに、学校を思う気持ちを育て、集団と自分の関係を正しく理解できる社会性や学校への帰属意識を高められるであろう」という仮説を立てた。

この仮説に基づき、本事例研究では、次の3点に配慮しながら実践を行った。

生徒会役員に十分な話し合いを行わせ、学校生活上の問題への課題意識をもたせる。

生徒会役員に、全校生徒が学校生活上の問題を課題として自覚できるように工夫させる。

全校生徒が話し合いの過程と結果を共有できるように工夫する。

(2) 対象 普通科 全日制課程 生徒会役員 7名

(3) 取り組み

生徒会役員による学校生活上の問題の整理と全校的な話し合いに向けた準備

生徒会役員は学校生活上の問題の話し合いを行い、課題意識をもつとともに、学校生活上の問題点を整理し、全校的な話し合いに向けた準備を行った。(表1参照)

表1 生徒会役員の活動内容

| 月日 | 内容・決定事項 | 教師の指導と援助 | 評価の観点 |
|--------------|--|--|---------------------------------|
| 5/11 5/18 | 学校生活上の問題点について話し合い | 事前に問題点を整理できるように準備させる。 | 課題意識をもって、活発に話し合いを行うことができたか。 |
| 6/22 | 学校生活上の問題点の整理 【決定事項】 期末考査後に中央評議委員会を開き、各委員会、ホームルームでこの問題について話し合ってもらおう。 | 生徒会長に生徒会役員内での活発な討議ができるよう、問題点を整理して、提示させる。 | 生徒会長のリーダーシップの下、問題点を集約することができたか。 |
| 7/8 | 中央評議委員会の開催の準備 【決定事項】 中央評議委員会を7月14日に開き、学校生活上の問題点について意見を求め、各ホームルームでの課題意識を喚起してもらおう。 | | 生徒会として中央評議委員会を開くことの意味を正確に理解したか。 |

ア 生徒会役員は「学校やホームルームでの生活上の問題について」をテーマに、生徒会定例会で話し合い活動を行った。(図1参照)

具体的な生徒会役員の話し合い活動では、次の4点に絞って行った。

- ・ 生徒会活動から見た最近の本校の問題点は。
- ・ 生徒会から見て、どのような生徒が望ましいのか。
- ・ 生徒会が中心となって学校全体で取り組めることは何か。
- ・ その結果何が期待できるだろうか。



図1 生徒会定例会の様子

その際、教師は、次回の生徒会定例会までに生徒会役員一人一人が学校やホームルームでの生活上の問題点について考え、それらの問題点をもち寄って話し合い活動を行うよう指導・助言を行った。

その結果、生徒会役員から多くの生活上の問題点が挙げられ、学校における自分たちの生活の充実や学校生活の改善・向上を図るために全校生徒で取り組むべき課題について話し合った(表2参照)。また、これらの課題について全校生徒が話し合える環境を作ることを確認した。

表2 生徒会役員から挙げられた「学校やホームルームでの生活上の問題」

| |
|---|
| <p>生徒会活動から見た最近の本校の問題点は。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校則が守られていないこと ・ 授業中の態度が良くないこと ・ やる気、活気が無いこと ・ 階段などが汚れていること ・ 皆が望んでいることが、時間、場所がなくてできないこと <p>生徒会から見て、どのような生徒が望ましいのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いを信じ合い、笑顔が絶えない生徒 ・ 活気があり、自分の行動に責任をもつ生徒 ・ 何事にも一生懸命で、思いやりのある生徒 ・ やりたいことが思い切ってできる、活動力のある生徒 <p>生徒会が中心となって学校全体で取り組めることは何か。</p> <p>ア バルック運動 イ もっと掃除をする(校内美化活動) ウ 募金活動 エ 行事を増やす(全クラス対抗スポーツ大会) オ 授業中の態度や貴重品の管理の呼びかけなどの課題への対策 カ 皆の意見になるべく応えられるようにする アンケートの実施</p> <p>その結果何が期待できるだろうか。</p> <p>ア 集めたバールックで物が買え、生徒会活動を充実できる。 イ 皆が気持ちよく生活できる。更衣室の清掃 衣類を置ける幅が広がる。 ウ 人や社会の手助けになる。 エ 高校生活がもっと楽しくなる。 オ 皆がルールやマナーを守り、本当の信じ合える仲間ができる。 カ 生徒会役員と全生徒との一体感が生まれる。</p> |
|---|

イ 生徒会役員が学校生活上の問題点を整理したことで、全校生徒が学校における自分たちの生活の充実や学校生活の改善・向上を図るために話し合うべき課題が明らかになった。そこで、生徒会役員はこれらの課題を話し合うための方法について検討した。

その結果、生徒総会につぐ議決機関であり、生徒会役員、ホームルーム委員、各委員会の委員長、部長会の代表生徒から構成される中央評議委員会を期末考査後に開き、これらの課題について生徒会役員から提案を行い、ホームルーム委員からホームルームの生徒に課題意識を喚起させ、話し合いをしてもらうことにした。その際、生徒会役員は、ホームルームでの話し合いが円滑に行えるように、話し合う課題について整理した資料を

作成することにした。また、各委員会の委員長にも委員会を開催して、同様に問題解決に向けて取り組めることを話し合ってもらうことを決定した。

全校的な話し合いを前提とした中央評議委員会活動等の展開

中央評議委員会を期末考査後に開き、これら課題について生徒会役員から提案を行い、ホームルーム委員からホームルームの生徒に課題意識を喚起させ、全校的な話し合いができるようにした。

表3 中央評議委員会等の活動内容

| 月日 | 内容・決定事項 | 教師の指導と援助 | 評価の観点 |
|-------|--|--|---|
| 7/14 | 中央評議委員会 状況説明と話し合い 全校生徒への課題意識の喚起のお願い | 活発な話し合いができるよう、生徒会役員に資料の用意と、十分な打ち合わせを行う。 | 生徒会役員のリーダー性は高まったか。 委員会生徒の課題意識が高まったか。 |
| 9/28 | 生徒会とホームルーム委員会の合同会議 状況説明とアンケート実施のお願い 生徒会とホームルーム委員との意見交換 | アンケート実施の趣旨が理解できるように問題点を整理する。 | アンケート実施の趣旨が理解できたか。 |
| 10/13 | 生徒会とホームルーム委員会の合同会議 アンケート結果の説明と話し合い ホームルーム討議の方法について | アンケート結果を踏まえ、生徒会役員とホームルーム委員とが協力して、ホームルームで話し合いやすい方法を考えさせる。 | ホームルーム委員の課題理解が図れたか。 課題解決に積極的に参加できたか。 全校生徒の課題意識は深まったか。 |

ア 中央評議委員会では、生徒会役員は、作成した資料を基に、全校生徒で学校における自分たちの生活の充実や学校生活の改善・向上を図るために話し合うべき課題の説明を行った。出席したホームルーム委員からは、生徒会役員の提案に驚きの声を挙げるとともに、課題解決に向けての様々な意見が出された。そして、生徒会役員が準備した資料と中央評議委員会で話し合った内容を基に、各ホームルームでの話し合いを行うこととなった。しかし、ホームルームでの話し合いは1学期末だったこともあり、各ホームルームで、取組みの程度に差が出る結果となった。



図2 中央評議委員会の様子

イ 2学期に入り、1学期末の各ホームルームでの話し合いが低調だったことを受け、生徒会役員は各ホームルームでより具体的、積極的に話し合いができるようにするためにはどうすればよいかについて話し合った。その結果、文化祭後、再度中央評議委員会を開くことを決めた。この中央評議委員会では、より直接的にホームルームでの話し合いと全生徒に課題意識を喚起できる組織は生徒会とホームルーム委員会との合同会議であるとの提案がなされた。また、生徒一人一人の課題意識を高め、話し合いをより円滑に行うための材料として、学校やホームルームでの生活上の問題についてのアンケートを実施することとなった。

ウ 生徒会とホームルーム委員会との合同会議で、生徒会役員はホームルーム委員にアンケートの趣旨を説明するとともに、全校生徒で学校やホームルームでの生活上の問題

題に対する課題意識をもち、学校での自分たちの生活の充実や学校生活の改善・向上に積極的に取り組んでいく必要があることについて意見交換を行った。(図3参照)

エ 各ホームルーム委員は、ホームルームで生徒会とホームルーム委員会との合同会議で話し合った内容を説明して、学校やホームルームでの生活上の問題についてのアンケートを実施した。



図3 合同会議の様子

オ アンケート結果について、生徒会役員で話し合い今後の方針を協議した。その結果、再度生徒会とホームルーム委員会との合同会議を開き、ホームルーム委員にアンケートの結果報告を行って、各ホームルームから出された学校生活上の問題を解決し、自分たちの学校生活の改善・向上に取り組むために何をすべきかについてホームルームで話合うことを決め、実施した。

(4) 結果と考察

生徒会役員の学校生活上の問題への課題意識を高めるための工夫

生徒会役員には、十分に話し合いを行ったことで、身近な学校生活上の問題に対する課題意識をもつことができた。このことにより、課題を解決するために、中央評議委員会やホームルーム委員会との合同会議を行うなど、積極的に活動した。また、生徒会役員はこれらの活動を通して、充実感も生まれ、リーダー性も向上した。

生徒一人一人が学校生活上の課題として自覚するための工夫

中央評議委員会やホームルーム委員会との合同会議で話し合った内容をホームルームで伝え、その内容を基にホームルームで話し合いやアンケートを行った。このことにより、生徒一人一人が学校生活上の課題を自覚するようになった。また、話し合いにより学校についてより深く考える姿勢も高まった。

全校生徒が話し合いの過程と結果を共有できるための工夫

委員会、合同会議や、ホームルームで、身近な学校生活上の課題について互いに話し合いの過程と結果を共有することで、全校生徒が課題意識をもつことができた。また、生徒一人一人が学校内で起きた課題を通して学校を考える機会となり、生徒相互の連帯感を深め、集団の一員としての意識の育成と社会性をはぐくむことができた。

(5) 今後の課題

今回の活動で、生徒会役員に限らず、全校生徒に校内で起きている様々な問題に意識を向かせることができた。今後は、これらの課題について引き続き全校で話し合う取組を行う必要がある。また、この取組を通して、生徒の「学校を思う気持ち」と公共心を育て、集団と自分の関係を正しく理解できる社会性や学校への帰属意識を高めていくことが大切である。

3 事例3 生徒会活動

充実した集団活動を通して、生徒一人一人の社会性を高める工夫 ～ユネスコ委員会の活動を通しての取組み～

(1) 指導のねらい

本校は、ユネスコの国際理解教育における教育実験活動「ユネスコ協同学校計画」に参加し、ユネスコ協同学校に指定されている。協同学校の目的は、「世界の諸問題とそれを解決する国連」「人権」「他国及び他文化」「人と環境」の4研究主題の基で、実験的・実践的活動を展開することである。本校においては、各ホームルーム2名ずつユネスコ委員を選出して、例年ユネスコ新聞の発行、書き損じ葉書の回収、文化祭における募金活動のためのバザー及びユネスコに関する研究を行い展示発表をしてきている。しかし、ここ数年のユネスコ委員会の活動は低調になってきている。この原因としては、ユネスコ委員一人一人がユネスコに関する知識や協同学校の目的などを十分に理解できていないことが考えられる。また、新年度のユネスコ委員会を発足する最初の話合いで、今年度の活動方針や活動計画が十分に議論されずに、例年を踏襲した活動となっている。さらに、ユネスコ委員会は、直接生徒の学校生活に関係している生徒会執行部や各行事の運営委員会と異なるため、委員会に臨む生徒の意識や責任感が十分に備わっているとは言えない状況がある。

そこで、「ユネスコ委員会において、ユネスコの目的を明確にするとともに、生徒が積極的に自分の意見や考え方を出し合えるように工夫することで、自主的・積極的に充実した活動を企画・実施する過程を通して、自己の果たす役割や責任を自覚し、公共のために尽くす心などの社会性が高められるであろう」という仮説を立てた。

この仮説に基づき、本事例では、次の3点に配慮しながら実践を行った。

- ① ユネスコに関する知識や協同学校の目的などについての理解を深める。
- ② 話合いの意義や方法について理解し、十分に議論して活動方針や活動計画を立てる。
- ③ 生徒が課題意識や責任感をもち、公共のために尽くす心などの社会性を高める。

(2) 対 象 普通科 全日制課程 全学年ユネスコ委員 42名

(3) 取組み

① 年度当初の事前の取組み

今年度のユネスコ委員会では、委員長、副委員長を中心とする2年生の生徒たちと担当教師が事前に打合せを行い、委員会活動を活性化するための方策を検討した(図1参照)。生徒からは、「もっと積極的に活動したいが、委員となる生徒がユネスコの意義や目的を理解していない。」「昨年、委員会の活動の流れが分からないまま活動してしまった。」などの意見が出された。そこで、教師は委員長、副



図1 事前打合せの様子

委員長の生徒に指導・助言を行い、昨年度の活動内容をまとめて、今年度の流れが分かるような年間活動計画の一覧表を作成して、年度当初の委員会で今年度の活動方針や活動計画が十分に議論できるようにした。また、この活動計画の中に、日本ユネスコ連盟協会への訪問など、ユネスコに関する知識や協同学校の目的などの理解を深めるための活動を入れることにした。(表1参照)

表1 年間活動計画

| 学期 | 月 | 活動内容 | 教師の指導と援助 |
|---------|-----|--|--|
| 1 学期 | 4月 | 前期委員会(前年度反省) | <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの育成のために昨年度より継続的な活動をしている2年生の生徒と教師とのコミュニケーションを図るようにする。 ・委員会活動を行うに当たって、日本ユネスコ協会連盟を訪問し、生徒がユネスコに関する共通知識を得るとともに、ユネスコ委員の責任を自覚させる。 |
| | 5月 | 前期活動方針や活動内容についての話し合い | |
| | 6月 | 前期活動内容の準備・調査 | |
| | 7月 | 日本ユネスコ連盟協会訪問 | |
| | 8月 | 文化祭参加準備 | ・文化祭準備の指導・助言を行う。 |
| 2 学期 | 9月 | 文化祭バザー出店、研究展示発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の2年生リーダーを中心に1年生を引っばる雰囲気作りの指導・助言を行う。 ・話し合い活動の活発化のため、自分の意見がまとめられるような様々な書込式プリントを用意する。 ・具体的活動がより自主的・主体的に責任をもって行っているかを確認する。 |
| | 10月 | 後期委員会(前期反省及び後期活動方針や内容についての話し合い)、後期活動開始 ユネスコ週間 | |
| | 11月 | 世界遺産ビデオ学習会、募金活動 | |
| | 12月 | 大使館訪問、世界遺産ビデオ学習会、募金活動 | |
| 3 学期 | 1月 | 書き損じ葉書回収、募金活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを中心に協力体制ができあがっているので、必要最低限の指導・助言を行う。 ・1年間のすべての活動を通じた成果と課題を明確にするように指導・助言を行う。 |
| | 2月 | 書き損じ葉書回収、募金活動 | |
| | 3月 | 年度末委員会(今年度反省、次年度引継ぎ) | |

② 前期委員会の取組み

年度当初の委員会では、委員長、副委員長を中心とする2年生の生徒たちが事前に取り組んで作成した年間活動計画(表1参照)を示したことで、生徒からは「ユネスコ活動を知って、もっと委員会らしい活動がしたい。」など、積極的に活動をしていきたいという発言が多く出された。また、1年生からはあまり意見が出されなかったが、年間活動計画に書かれている活動内容について質問をするなど、今年度の委員会の流れや活動内容を理解しようとしていた。また、委員長から例年通りの活動に加え、新企画として7月に日本ユネスコ連盟協会を訪問することを提案して話し合いが行われた。その結果、「ユネスコ委員会の活動の目的を明確にして、1年間活動をしたほうがよい。」など、肯定的な意見が出され、実施することが決定された。このことから、委員長、副委員長を中心とする2年生の生徒たちが昨年度の反省から、今年度の年間活動計画を示したことで、生徒が今年度の活動方針や活動計画について十分に議論することができたと言える。

この年度当初の委員会の運営を通して、委員長から「定期的に話し合う機会をもち、委員会での話し合いを活性化しよう」との提案が出され、委員長、副委員長を中心とする2年生の生徒たちと担当教師で隔週で打合せをすることにした。

③ 日本ユネスコ連盟協会への訪問

7月9日に、今年度新たに企画した日本ユネスコ連盟協会への訪問を行った。この企画は、ユネスコ委員がユネスコに関する知識や協同学校の目的などを十分に理解して、今年度のユネスコ委員会の活動を充実・向上させることを目的として実施した。(図2参照)

実施に当たっては、委員長、副委員長を中心とする2年生の生徒たちが事前にユネスコに関する資料を調べて、日本ユネスコ連盟協



図2 日本ユネスコ連盟協会訪問の様子

会訪問予習シートを作成して、ユネスコ委員の生徒に事前学習をさせてから訪問することにした。当日は、日本ユネスコ連盟協会の職員からユネスコの理念や歴史と沿革、日本ユネスコ連盟協会の役割と活動などの説明とビデオを視聴した。その後に、職員と生徒とのユネスコ活動についての質疑を行った。この訪問を通して、生徒は「ユネスコは、人類が二度と戦争の惨禍を繰り返さないようにとの願いからできた機関であることをはじめて知った。」「職員の『戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない』と言う言葉に感銘を受けた。」「私も身近なことから世界平和のためにユネスコ活動をしていきたい。」などの感想をもち、ユネスコに関する正しい知識と理解を深めるとともに、生徒の平和への願いや課題意識が生まれ、公共のために尽くす心などの社会性をはぐくむことができた。

④ 文化祭の取組み

生徒は、日本ユネスコ連盟協会への訪問を通して、ユネスコに関する正しい知識と理解を得ることができ、ユネスコ活動と委員会の取組みについての展示物を作成するとともに、PTAと連携したバザーを行った。特に、バザーではバザー責任者の委員を中心に全員で運営方法についての話し合いを行った。このことで、各自がそれぞれの個性を發揮しながら自己の役割を果たすとともに、活動の中で相互に認め合い、協力していく姿勢が見られた。

⑤ 後期委員会の取組み

後期委員会を始めるに当たって、委員長、副委員長を中心とする2年生の生徒たちと担当教師で「話し合い活動を活発にして、充実した委員会活動にするにはどうしたらよいか」について検討した。その際、前期委員会でうまくいかない問題点を挙げて、その対策について考えた。

ア 会議メモの作成

委員の生徒が委員会の内容を覚えていなかったり、提案に対して意見や考えを出さなかったり、活発な話し合い活動ができない場面があった。そこで、委員長は「会議メモ」(図3参照)のプリントを作成することにした。

そして、委員会開始直後に配布して、会議の内容を記入

| 【会議メモ】 | |
|-----------|---------|
| 日 期 | () 時 間 |
| 議 題 | ・ ・ |
| 内 容 | |
| 取 扱 | |
| 自 分 の 意 見 | |

図3 会議メモ

してもらいともに、「自分の意見」欄に必ず意見や考えを記入してもらったようにした。また、委員会終了後にこのプリントを回収して、委員長、副委員長を中心とする2年生の生徒で委員の意見と考えを集約するようにした。

イ 学年縦割り班による検討

ユネスコ委員は、1年生から3年生までの42名で構成しているため、1年生からの積極的な意見や考えが出されなかったり、意見が具体的にまとまらなかったりする場面があった。そこで、各班14～15人程度の3つの学年縦割り班に分けて、話しやすい雰囲気を作るようにした。

ウ 企画書の作成

提案者の発言内容が分かりにくいため他の委員からの提案に対して、意見や考えが出しにくい場面があった。そこで、委員長は「企画書」(図4参照)のプリントを作成することにした。提案者はこのプリントに企画名、日時、場所、内容、準備、予算などの項目を記入することで、提案者が意図していることが他の委員に明確になるようにした。また、各委員にこのプリントを事前に配布して、当日に積極的な話し合いが行われるようにした。

| 【企画書】 | |
|---------|--|
| 企画名 | |
| 日時 | |
| 場所 | |
| 時間 | |
| 内容 | |
| 準備 | |
| 予算 | |
| 用意するもの | |
| 大案簿 | |
| 小案簿 | |
| アジェンダ | |
| 委員個人の意見 | |

図4 企画書

(4) 結果と考察

今回、日本ユネスコ連盟協会へ訪問したことで、ユネスコに関する正しい知識と理解を深めることができた。そして、この訪問が、今年度のユネスコ委員会の活動の原動力となった。このことは、生徒が、委員会の趣旨や目的を認識して活動することで、自己の果たす役割を自覚するとともに、協力して共に生きていくための社会性をはぐくむことができたといえる。

また、後期委員会に向けて、委員長、副委員長を中心とする2年生の生徒たちと担当教師が十分に話し合い、前期委員会でうまくいかない問題点を挙げて、その対策について考えた。そして、会議メモ、企画書の作成や学年縦割り班の編成などを考え、実施した。このことで、各委員が他の委員の言葉や意見に耳を傾けながら、自分でしっかりと考え、自分の言葉で適切に表現する活動を行うことができた。

今年度の活動を通して、話し合い活動に対する積極的な姿勢が育成され、単に協力し合うというだけでなく、自分たちで話し合っただけで決めたことを最後まで責任をもってやっていく、生徒が課題意識や責任感をもち、公共のために尽くす心などの社会性が高められた。

(5) 今後の課題

今後も、生徒に生徒会活動、ホームルーム活動、学校行事などの目的を明確にするとともに、生徒が積極的に自分の意見や考え方を出し合えるような様々な工夫・改善を図っていく必要がある。また、生徒が、自主的・積極的に集団活動にかかわれる場を設定し、自己の果たす役割や責任を自覚し、集団や社会の一員としてよりよい生活を築いていく社会的な資質を育成するための具体的な方策を考えていくことが大切である。

4 事例4 学校行事

充実した集団活動を通して、生徒一人一人の社会性を高める指導の工夫 ～文化委員会総務が意欲的に文化祭を改善していく取組み～

(1) 指導のねらい

本校の文化祭は毎年9月中旬に行われている。生徒は学校行事が好きで、特に文化祭は盛り上がりを見せる学校行事である。しかし、文化委員会が中心となって、学校全体をまとめ、互いに協力してよりよい文化祭を作り上げていく点や、生徒のアイデアや希望を取り込んでいく点において、十分とはいえない状況がある。このため、文化祭をリードしていく文化委員会が、リーダーシップを発揮して、文化祭の充実を図っていくことが期待されていた。

そこで、「文化祭の活動において、文化委員会の中に「総務」を設けるなど、フットワークのよい、迅速に対応できる組織作りを行うとともに、この組織の中で十分な話し合いを行い、新たな提案ができるような活動を展開することによって、生徒のコミュニケーション能力や責任感、計画性・継続性などの社会性が高まるであろう」という仮説を考えた。

この仮説に基づき、次の3点について指導のねらいを設定した。

- ① 「総務」の話し合いを活性化することで、委員一人一人が意見や考えもち、主体的に活動に参加しようとする姿勢を培う。
- ② 自分自身のアイデアに責任をもも、学校全体に提案する力を身に付けさせる。
- ③ 最後までやり遂げることによって、充実感・達成感をもてるようにし、次のよりよい集団活動への意欲を高める。

(2) 対象 普通科 全日制課程 文化委員会総務 9名

(3) 取組み

文化委員会は、各ホームルーム2名ずつ、30名の文化委員で構成している。そのため、全文化委員で話し合いを行っても、なかなか意見が出にくく、委員長・副委員長等だけでは負担が大きい。そこで、今年度は、この文化委員会の中に「総務」を設定することにした。この「総務」は、例年の文化委員会の中に構成する執行部よりも多めの9名で、文化委員会の上部組織として置くことにした。そして、文化委員の中から、各学年3名ずつ、立候補で選出することにした。また、この「総務」の中で、文化委員会や、各企画団体の代表が集まる企画責任者会議に提出する議案の原案作りや、各団体の調整等を行った。

今年度の最初の文化委員会「総務」の集まりで、教師からは「昨年のやり方にとらわれず、自分でよいと思ったことや考えを遠慮せず話し合いの場に出そう」と提案した。生徒の方からは「改善したい点はいくつかある」「自己満足でない、レベルの高い文化祭を目指したい」という意見が出た。また、企画責任者へのアンケートを実施して、生徒の意見を集約すること、毎週の文化委員会では、積極的に「総務」から提案を行い、話し合いの中で改善の方向を探っていくことが確認された。

① 今年度の改善点

今年度、「総務」を置いたことで、積極的に文化委員会に原案を作成し、話し合いの中で改善の方向を探り、文化委員会で承認され、多くの改善を図ることができた。「総務」が提案した原案は、ほとんどが文化祭全体にかかわる事項であり、主に活動の前半である1学期に「総務」の中で十分な話し合いを行い、実現できる案となるよう協議した。生徒は、これまでの文化祭の取り組み方の必然性も理解しながら、現状に応じた改善を考えていった。(表1参照)

表1 今年度、文化委員会「総務」で提案・実行した改善点、教師の指導・援助と周囲からの評価

| 項目 | 改善前 | 改善後 | 教師の指導と援助 | 周囲からの評価 |
|-------------|---|--|--|---|
| プログラムの全面改訂 | B5サイズで大きく、持ちにくかった。案内項目だけ、という印象であった。 | A5サイズとし、ページ数を大幅に増やして、企画団体の生の声が反映するようにする。 | 印刷会社の連絡先や他校のプログラムなど、検討材料を渡し、具体的な方法を提供する。 | 見やすく、内容も豊かになったと高く評価された。 |
| 出し物のバランスの検討 | 展示部が盛り上がらない一方、演劇希望団体が多すぎて公演回数が制限されている。 | 2年生は展示を前提に教室を使用することを提案し、全教室を展示会場にする。 | 文化委員会を開くとき、改善の理由をよく説明し、行き詰まったらすぐ「総務」に相談するよう助言する。 | 空き教室がなくなり、文化祭らしい華やかさが出たと評価された。 |
| 会場表示の工夫 | 各企画の会場が分かりにくかった。 | 会場に通し番号を付け、各会場に大きく取り付ける。プログラムにも明示する。 | 文化委員会を通じて、会場番号を徹底するよう、実物を作って見せるなどの工夫を指導する。 | 大変見やすいと評価されたが、事前に全校生徒にまでは徹底できなかった。 |
| 入場ゲートの簡略化 | 特定の生徒と教師で作成しており、負担が片寄っていた。 | 全ホームルームのたれ幕を門装飾の中心として、ゲートは簡略化する。 | たれ幕コンテストを実施し、レベルアップを図るよう、助言する。 | 片寄った作業が解消したが、門の周辺が寂しいとの声もあった。 |
| 金券販売方法の改善 | 一カ所で生徒会がすべての金券販売を請け負っており、生徒会の負担が重く、また買うのに時間がかかった。 | 一教室を金券場所とし、教師がついて安全を確保するとともに、各団体の代表者が責任をもって販売に携わる。 | 会計説明会等を通じて、現金の取扱いに十分に注意するよう助言する。 | 生徒会の過重な負担がなくなる上、各団体が責任をもって会計を行うことはよいことであると評価された。 |
| 出し物の規制の緩和 | 規制が厳しくて、できることが限られるという声が多かった。 | 特に展示部門の規制を見直し、やりたい展示ができるよう、規制を緩和する。 | 文化委員会を通じて、やりたいことを具体的に相談するように助言する。なるべく企画団体の希望がかなう手立てを考える。 | やりやすくなったことや、禁止するだけでなく、希望を具体的に相談するように窓口を設けたことが評価された。 |
| 時程・日程の変更 | 金曜日・土曜日の一日半で開催していた。 | 土曜日・日曜日の二日間で開催し、公演回数や食品販売数等を増やす。 | 開催時間を増やすことで、より豊かな文化祭にするために、全校生徒に呼びかけるよう助言する。 | 公演では回数を多く設定でき、また入場者数が増えて充実感があつたと評価させた。 |

② 文化委員会・企画責任者会議の運営の工夫

「総務」の運営で、週に1回の文化委員会を開催するとともに、必要に応じての企画責任者会議を開催した。教師は委員会等のある前日は必ず「総務」会をもち、スケジュールに従って連絡事項・配布資料の確認・工夫などを行うことを助言した。また、自分の担当については、事前に「総務」で原案を提出し、全員でそれを検討してから文化委員会や企画責任者会議に提案する、手順を踏むように指導した。2学期になってからは、ほぼ毎日「総務」会を開くことになって、「総務」のメンバーは大変多忙となったが、そのような手順を経ることによって、文化委員会や企画責任者会議により練られた原案を提案することができ、会議の中で混乱や苦情はほとんどなかった。

「総務」の生徒は、最初は声も小さく説明も要領を得ないことも多かったが、回を重ねるにつれて円滑に段取りを考えて会議を進めることができるようになった。また、文化委員や企画責任者からの質問にもよく対応していた。(図1参照)

また、「総務」は、各企画団体の企画責任者に「企画責任者会議アンケート」を1学期と2学期に1回ずつ実施して、各企画団体の状況を把握するとともに、学校全体をまとめ、互いに協力してよりよい文化祭を作り上げていけるように、よりきめ細かな対応を行った。(図2参照)



図1 文化委員会の様子

企画責任者会議 (9月1日) アンケート 1
文化委員会よりお聞きします。

★団体名 _____ 記載者 _____

★企画名は何ですか?

常夏娘♡

★〇〇祭に来る人たちの、どのような層の人をねらった出し物がありますか?
(例:小学生が楽しめる〇〇がある、高齢者がほっと一息つけるような静かな喫茶店を目指す、など)

ヨーヨークリップ、いろんなゲームあり☆
コーナーには、休憩場所もあたりて、ホッ?!

★今、企画責任者として困っていることは何ですか?また、文化委員会に質問があったら書いてください。

お金が足りるか心配(´▽´)
協力してくれない人とか、いて困る!!

図2 企画責任者会議アンケート

③ アンケート及び聞き取り結果

文化祭翌日のホームルームで、全校生徒対象に文化祭についてのアンケートを行った。また、今年度の文化委員会「総務」で提案・実行した改善点についての評価・意見を得るために、教職員にもアンケートを実施した。さらに、教師は「総務」のメンバーに対して、より詳細なアンケートと個別面接を行い、文化祭の反省、次年度への抱負、話合いの成果や自己の変容についてなどを聞き取った。

(4) 結果と考察

① 全校アンケート結果より

全校生徒に実施したアンケートでは、文化祭を楽しんだ生徒が高い割合を占めた。

また、「総務」が提案した改善点に関しても、高い評価を得ることができた。教師向けのアンケートでも、ほぼ同様の

傾向が見られ、今年度の文化委員会「総務」の活動が高かく評価させた。(表2参照)

表2 全校生徒対象アンケート結果より(抜粋)

| 項目 | 回答 | | |
|----------------------|--------------|---------------|------------|
| | | | |
| 今年の文化祭はどうでしたか | 楽しかった 85% | つまらなかった 6% | その他 9% |
| 垂れ幕はどうでしたか | 良かった 85% | 良くない 5% | その他 10% |
| 金権売り場を一教室にしましたが | 良かった 74% | 良くない 13% | その他 13% |
| プログラムのサイズ・中身を変更しましたが | 良かった 83% | 良くない 4% | その他 13% |
| 教室展示を増やしたが | 良かった 82% | 良くない 7% | その他 11% |

② 「総務」のメンバーに対するアンケートと個別面接の結果

「総務」メンバーに対して、アンケートと個別面接を実施した。(表3参照)

これらの結果から、次の3点の成果が挙げられる。

ア 少人数の「総務」を設けたことで、自由に意見を出しやすくなり、十分な話し合いをすることができた。このため、よりよい原案となり、生徒は自信をもって全校に提案できた。また、この過程で、生徒は、自分の考えを論理的に表現する能力を高めた。

イ 生徒は、文化祭という大きな行事を成功させるには、計画性・継続性が重要であることを実感し、次の活動に生かそうとする積極的な態度を養うことができた。

ウ 生徒は、文化祭を成功させたことで充実感・達成感を得て、リーダーとしての自信を付けた。自己の成長・変容を認識し、次の集団活動への意欲をもつことができた。

表3 「総務」へのアンケート・個別面接の結果(抜粋)

| 質問項目 | 回答 |
|---------------------------|--|
| ①やり遂げたことについての感想 | ・一生懸命やったことが報われて、よい結果を得ることができた。 ・自信につながり、次に生かせると思う。 |
| ②話し合いによって得たものは何か | ・話し合いをすることでよりよい企画となった。 ・意見を交わし合うことで、自分が気付けないことに気付けた。 ・話し合いを経ることで、自信をもって委員会で提案できた。 |
| ③「総務」を経験したことで、どんな点が成長したか | ・何もかもが中途半端だったのが、今回は最後までやり通すことができた。 ・一つのことをやり通した経験がなかったが、やればできると思った。 ・いままで意見をあまり言えなかったのが、たくさん意見が言えた。 ・いままで何もできなかったが、やればできるという自信がもてた。 |
| ④文化祭など、学校行事にはどんな意義があると思うか | ・新しい友達ができたり友情が深まったりする。 ・クラスの結束が深まり、自分自身も成長できる。 ・何かをやり遂げる喜びがある。 |
| ⑤機会があったらまた行事の中心でがんばるか | ・やると思う(7人/9人) 自信が付いた 楽しくやりがいがあった。 ・やらない(1人/9人) 大変すぎたから。 ・わからない(1人/9人) |

(5) 今後の課題

今年度は2・3年生が中心になって文化祭を成功に導いたが、1年生は2・3年生の補助に回ることが多く、責任を十分分担できなかった。今後は計画的に役割を考え、また今年度の成果を1年生に継承し、さらに改善を試みていくことが課題である。

5 事例5 学校行事

充実した集団活動を通して、生徒一人一人の社会性を高める指導の工夫 ～文化祭実行委員会における、自主的活動を継続させる取組み～

(1) 指導のねらい

本校では、例年9月下旬に2年生が中心となって文化祭を行っている。1年生は、入学してから半年が経ち、学校生活にも慣れ、ホームルーム活動や学校行事にかかわりを持ち出してくる時期である。また、3年生は最後の文化祭で有終の美を飾るため、ホームルームが一体となって取り組む行事である。文化祭実行委員会は、各ホームルームから選ばれた文化祭実行委員で組織され、これまで例年のやり方を踏襲しながら、まとまりのある文化祭を実施してきた。しかし、



図1 文化祭開会式の様子

最近では、教師が中心となって生徒を引っ張っていく場面が増え、生徒が自主性・主体性をもって話し合いを行い、企画を実施することが難しくなっている。このため、生徒は受動的な委員会活動への参加となり、生徒の中には無責任な行動を取るものもいる。この原因としては、生徒がこれまでに他の生徒と協力し、組織的な活動を自主的・主体的に行ってきた経験が少ないことが考えられる。

そこで、「文化祭実行委員会の活動を通して、生徒一人一人が委員会活動の在り方や運営方法を学び、主体的な活動ができるように指導を工夫することで、集団活動に参加する意欲を高め、集団の一員としての自覚や、他者と協力して活動を継続する力などの社会性が高められる」という仮説を立てた。

この仮説に基づき、本事例では、次の3点に配慮しながら実践を行った。

- ① 教師は委員会の運営方法や委員長等の役割などについて指導・助言して、委員長を中心とした全委員で主体的・組織的な活動になるようにする。
- ② 委員長を中心に委員会活動の長期見通しがもてるような計画と企画を提案することで、委員会の一員としての自覚をもって、計画的・継続的な活動ができるようにする。
- ③ 委員会活動を省みるためのアンケートや反省会を実施することで、委員一人一人のよさや努力を評価するとともに、文化祭の取組みの成果と課題を明らかにする。

(2) 対象 文化祭実行委員会 3学年18クラス 計36名

(3) 取組み

例年の文化祭を踏襲するだけにとどまっていた委員会を活性化するために、委員一人一人が、委員会活動の在り方や運営方法を学び、主体的な活動ができるようにするため、次の3点について指導の工夫をした。

① 委員長を中心とした組織づくり

委員長を中心に全委員で主体的・組織的な活動を展開するために、委員長を中心とした組織づくりを行うことにした。このためには、委員長がリーダーシップを取れるようにする必要がある。そこで、教師は委員長と文化祭実行委員会の役員を事前に集め、打合わせを行ってから、文化祭実行委員会を開催することにした。4月当初の打合わせで、委員長から「昨年の委員長が委員会を運営しているのを見ていたが、今年、自分もできるか不安である。」と率直な思いが出された。教師は、委員会の運営方法、委員長等の役割、話合いの導入の仕方や進行の方法など、具体的に指導・助言を行った。このように、生徒の希望や思いを受け止め、生徒が自信をもって、意欲的に活動できるように援助するように心がけた。



図2 文化祭実行委員会の様子

② 計画的・継続的な活動を維持するための取組み

委員長と文化祭実行委員会の役員との打合わせで、役員から「4月から9月までの長期間の活動で、すぐには結果が出ない。」「文化祭当日まで、単調だったり、大変な作業を伴ったりすると、ダレてしまう生徒が出る。」「何か、委員会としての企画ができないか。」などの意見が出された。そこで、文化祭実行委員会の一員としての自覚をもって、計画的・継続的な活動ができるようにするために、次の2点の方策を立てた。

- ア 昨年の委員経験者等から苦労談や活動後の充実感を話してもらい、見通しをもたせる。
- イ 委員会も学校全体企画に参加することを提案して、その計画と役割分担を明確にする。

③ 委員会活動の成果と課題の集約

生徒がこれまでに他の生徒と協力し、組織的な活動を自主的・主体的に行ってきた経験が少ない。そこで、文化祭の取組みを基に、委員一人一人のよさや努力を評価するとともに、文化祭の取組みの成果と課題を明らかにするため、次の2点の方策を立てた。

- ア 文化祭の取組みの成果と課題を考えるとともに、自分や他の委員のよさや努力を考えさせるためのアンケートを実施する。(図3参照)
- イ アンケート結果を基に、文化祭の取組みを次年度引き継ぐための成果と課題をまとめるための話合いを行う。

文化祭アンケート

文化祭実行委員会

文化祭参加の経験に関するアンケートに回答してください。

1 今年度の参加を通して、活動が有意義だったと思います。また、どのように活動すればよいと感じています。

2 今年度の活動で自分が良いと感じた点はどこですか。

3 今年度の文化祭の取組みについて、どのような改善点がありますか。

4 今年度の文化祭を振り返り、あなたの意見や感想を教えてください。

回答の記入がとろまっています。

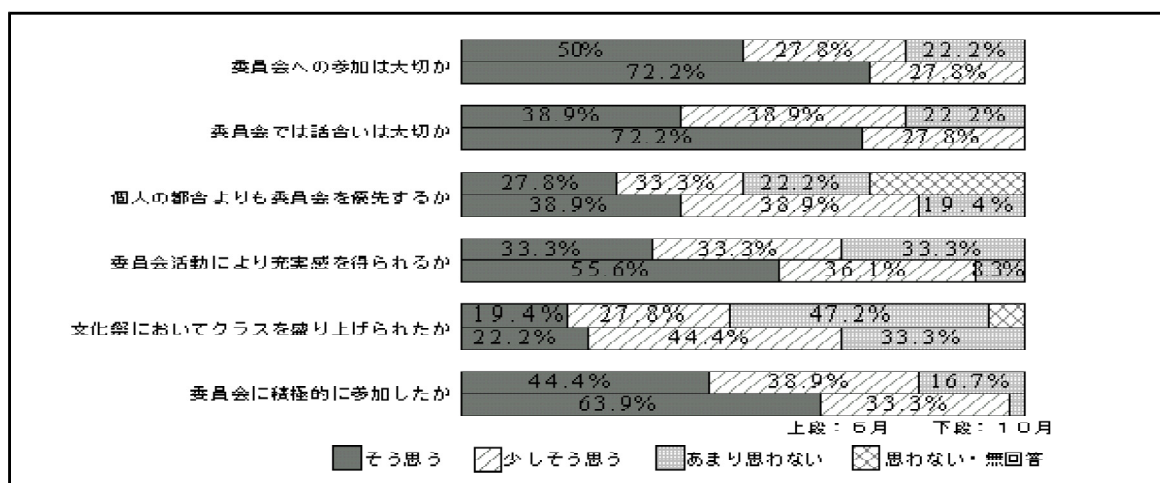
図3 文化祭後のアンケート

(4) 結果と考察

本事例では、文化祭への活動を始めた6月と文化祭終了後の10月で、文化祭実行委員の意識の変化を分析するために、委員意識アンケートを実施した。(表1参照)

委員意識アンケートでは、「委員会では話し合いは大切か」「個人の都合よりも委員会を優先するか」など、すべての項目において「そう思う」の割合が増えている。これらのことから、文化祭実行委員会の活動を通じて、生徒は委員会活動に参加する意欲を高め、文化祭実行委員の一員としての自覚や、他者と協力して活動を継続する力などの社会性が高められたことが伺える。

表1 委員意識アンケート



① 委員長を中心とした組織づくり

委員長と文化祭実行委員会の役員は教師との事前打合わせを必ず行ってから、文化祭実行委員会を開催した。また、教師は生徒の希望や思いを受け止め、生徒が自信をもって、意欲的に活動できるように援助した。



図4 文化祭準備の様子

4月当初は、顔見知りではない生徒の集まりのため、活発には話し合いは行われなかった。そこで、委員長は各委員に「集団における個人の役割の大切さ」について話をするとともに、文化祭に向けての自分の考えや思いを語った。また、活動目標の設定にあたっては、文化祭実行委員会の活動が学校全体の文化祭の成功にかかわることを話した。6月になり、各ホームルームの企画や、文化祭実行委員会でも学校全体企画に参加することが決まると、話し合いも次第に活発になり、委員長を中心とした全委員で主体的・組織的な活動が行われるようになった。委員意識アンケートの自由意見欄にも「文化祭全体の責任者としての自覚が出てきて、気合いが入った。」「面倒な仕事を、皆できちんと分担できたので気持ちよかった。」などの記述が見られるようになった。これらのことは、委員長と文化祭実行委員会の役員が、委員会の運営方法、委員長等の役割、話し合いの導入の仕方や進行の方法などを学び、リーダーシップが高められ、円滑な話し合いが行われたことによると考えられる。

② 継続的活動を維持するための取組み

委員会の一員としての自覚をもって、計画的・継続的な活動ができるようにするために、昨年の文化祭実行委員の経験者や教師から文化祭活動の苦労談や成功体験を話してもらった。また、文化祭実行委員会として学校全体企画「学校全体の巨大壁画」に参加することで、より主体的な活動ができるようにした（図5参照）。最初は、文化祭の運営だけでも大変なのに、学校全体企画も行うことに対する不満があったが、委員長と文化祭実行委員会の役員が各委員と十分に話し合うことで、実施することができた。そして、このことによって、文化祭実行委員は意識を高めるとともに、作業を継続するきっかとなった。委員意識アンケートの自由意見欄にも「新しい企画は考えるのは面倒だったが、できあがって嬉しかった。」「一人一人が少しずつやって、あんなに大きな壁画やオブジェを完成できて感動した。」などの感想が見られた。これらのことから、結果的には多くの生徒が苦労を惜しまず、努力しながら、それぞれの責任を果たし、最後までやり遂げることで、文化祭実行委員会の一員としての自覚をもたせることができたと言える。



図5 「学校全体の巨大壁画」の様子

③ 委員会活動の成果と課題の集約

文化祭の取組みを基に、委員一人一人のよさや努力を評価するとともに、文化祭の取組みの成果と課題を明らかにするために、アンケートと話し合いを行った。話し合いでは、「学校全体の巨大壁画」、学年のピロティ展示、ホームルームの展示企画などについて、様々な意見が出された。また、委員意識アンケートの自由意見欄にも、「自分の力が大きな企画を動かした実感が嬉しかった。」「もう委員会は嫌だと思っていたが、文化祭が終わると感動していた。また来年委員をやりたい。」など文化祭をやり遂げた達成感や充実感を挙げており、今回の活動を通して、集団活動に参加する意欲を高め、集団の一員としての自覚や、他者と協力して活動を継続する力などの社会性が高められたと考える。

(5) 今後の課題

今回の事例では、アンケートの結果や生徒の活動の様子から、意識の変容を確認した。しかし、社会の一員という自覚やコミュニケーション能力などの社会性が高まったことを客観的に確認することができなかった。今後は、このような取組みを積み重ね、その成果と課題についてさらに研究し、充実した集団活動を通して、生徒一人一人の社会性を高める指導の工夫を図っていきたい。

IV まとめ

本年度の特別活動部会では、「充実した集団活動を通して、生徒一人一人の社会性を高める指導の工夫」という研究主題に基づき、「話し合いを中心とした活動を展開することで、集団における個人の役割を自覚し、主体的に集団活動に参加しようとする生徒が育成できる。」という仮説を設定し、研究を行った。

研究を進めるに当たって、本年度の教育研究員が所属する学校の生徒を対象に、「生徒の意識調査」を実施して、特別活動に関する生徒の意識を把握し示すとともに、「社会性を高める指導」の観点（3ページ）としてまとめた。

これらの観点を踏まえながら、以下の5点の特別活動の実践例に取り組んだ。

○ホームルーム活動

事例1 ～ホームルームにおける話し合い活動を通しての取り組み～

○生徒会活動

事例2 ～生徒会を中心とした学校生活の充実と改善・向上を図る取り組み～

事例3 ～ユネスコ委員会の活動を通しての取り組み～

○学校行事

事例4 ～文化委員会総務が意欲的に文化祭を改善していく取り組み～

事例5 ～文化祭実行委員会における、自主的活動を継続させる取り組み～

事例1では、縦割りホームルーム、文化祭等におけるホームルームでの話し合い活動を通して、生徒のコミュニケーション能力や学校という社会の一員としての自覚が高められた。

事例2では、生徒会を中心とした学校生活の充実と改善・向上を図る取り組みを通して、生徒一人一人が学校内で起きた課題を通して学校を考えるようになり、生徒相互の連帯感を深め、集団の一員としての意識と社会性をはぐくむことができた。

事例3では、ユネスコ委員会の活性化に向けた取り組みを通して、生徒の課題意識や責任感をもち公共のために尽くす心などの社会性が高められた。

事例4では、文化委員会総務が意欲的に文化祭を改善していく取り組みを通して、充実感・達成感を得て、リーダーとしての自信を付け、自己の成長・変容を認識し、次の集団活動への意欲をもつことができた。

事例5では、文化祭実行委員会における、自主的活動を継続させる取り組みを通して、委員会の一員という自覚と協力して活動を推進するなどの社会性が高められた。

これらの実践事例では、生徒の社会性を高める指導の在り方を考え、それぞれの仮説に基づき研究を進めてきた。生徒の社会性の伸長をどのように捉え評価するのかという困難な壁に阻まれるなか、月例会での議論を重ね方法について検討してきた。課題は多く残るが、いずれの事例からも生徒の社会性の伸長を確認することができた。

心の教育の重要性が叫ばれるなか、特別活動の果たす役割はますます重要なものとなっていくと考えられる。今後も「充実した集団活動を通して、生徒一人一人の社会性を高める指導の工夫」の観点を踏まえながら、各学校で計画的、継続的、組織的な指導を行っていくことが大切である。

平成16年度 教育研究員名簿（ 特別活動 ）

| | 区市町村名 地区 | 学 校 名 | 氏 名 |
|--|-------------|-------------|--------|
| | 9 | 都立 田 無 高等学校 | 山下 弘之 |
| | 1 | 都立 三 田 高等学校 | 松井 章朗 |
| | 2 | 都立 松 原 高等学校 | 上野 百合子 |
| | 3 | 都立 豊多摩 高等学校 | 亀崎 隆彦 |
| | 6 | 都立 東 高等学校 | 渋谷 直孝 |

世話人

担当 東京都教職員研修センター 統括指導主事 出張 吉訓
指 導 主 事 池上 信幸

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社